

令和5年度 新潟市農業活性化研究センター試験成績書

研究課題	秋冬期における一、二年生草花の展示栽培（クローバー）
背景・ねらい	新潟市では晩秋から早春にかけて出荷できる切花品目が少ないため、秋冬期における無加温ハウスで栽培が可能な品目・作型等を検討し、切花出荷期の拡大を図る。
担当者	海津 朋之, 山口 次郎, 渡邊 一彦
研究期間	2020～（4年目）

1 目的

秋冬期に無加温ハウスで栽培が可能であり、市場での需要が高い品目を展示栽培し、当該期に球根以外で種苗費が安く換金可能な草花類（秋播き二年草）の新品目導入のための資料とすることを目的とする。本品目は新規。秋播種春夏採花が一般的である。

2 方法

(1) 供試品種：クローバー（1品種）

クリムゾンクローバー<タキイ>

(2) 試験区の構成・規模

120株

(3) 耕種概要

ア 試験圃場：新潟市南区（新潟市農業活性化研究センター内鉄骨ハウス）

イ 播種：7月10日

ウ 定植：7月26日

エ 栽植様式：畝幅80cm, 条間15cm, 株間15cm, 4条植え（33,333株/10a）

オ 施肥：基肥（kg/10a）N-P₂O₅-K₂O=15-15-15

追肥 生育の状況を見ながら適宜施用。

カ 電照：定植から日長延長（日没後～PM10:00）

キ 摘芯：なし

(4) 調査項目

採花日, 採花本数, 切花長, 茎径, 節数, 側枝数, 切花重

3 結果の概要（表1）

(1) 発芽は良好であった。草勢が強く、採花は株ごとに行った。

(2) 高い在圃性がみられたため、上中下旬ごとに採花を行って評価した。9月中旬から11月下旬まで採花が可能で、平均到花日数は104.8日となり、10月下旬が採花最盛期となった。

(3) 切花長, 切花重, 側枝数, 株あたりの採花本数など多くの項目において採花日が遅いほど大きい値となる傾向が示された。

(4) 採花後半において茎の湾曲がみられ、10月中旬以降の採花において特に強く表れた。

4 考察とまとめ

本試験では、本来秋播種春夏採花が一般的なクローバーについて、夏播き秋冬咲きの作型で栽培した。従来草勢が強い品目であり、株あたりの茎立ち数も多く、高温下での遮光も影響し軟弱徒長となり、生育後半茎の湾曲がみられた。採花作業は非常に煩雑となり、採花は株ごとに行った。高い在圃性がみられたことに加え、9月中旬から11月下旬まで採花が可能であった。平均到花日数は104.8日となり、10月下旬が採花最盛期となった。切花長, 切花重, 側枝数, 株あたりの採花本数など多くの項目において採花日が遅いほど大きい値となる傾向が示されたが、採花後半において茎の湾曲がみられ、栽培の際は植栽間隔等の検討が必要である。



図1 クローバー写真（左：9月上旬採花，右：10月下旬採花）

表1 クローバー切花調査結果

採花本数	平均	開始日	終了日	到花日数
763	10/22	9/12	11/6	104.8 ±11.9

採花時期	株あたり採花本数	切花長 (cm±S.D.)	茎径 (mm±S.D.)	節数 (節±S.D.)	切花重 (g±S.D.)	分枝数 (本±S.D.)
9月中旬	6.7	47.0 ±2.8	2.0 ±0.2	7.6 ±1.1	5.0 ±1.3	2.0 ±0.9
9月下旬	7.5	65.6 ±4.3	2.8 ±0.2	5.5 ±0.1	26.8 ±3.5	14.6 ±1.4
10月上旬	5.6	75.2 ±1.4	3.0 ±0.3	6.0 ±1.1	53.6 ±27.6	12.2 ±2.5
10月中旬	8.0	87.1 ±5.9	3.1 ±0.0	6.3 ±0.8	35.6 ±6.1	17.4 ±0.8
10月下旬	12.0	97.8 ±12.1	3.5 ±0.6	7.9 ±0.2	72.0 ±30.5	20.2 ±2.9
11月上旬	10.7	109.8 ±7.5	2.4 ±0.4	4.8 ±1.0	30.4 ±11.1	33.4 ±3.2

(n = 20)